

# 哲学委員会（第25期・第4回）

## 議事要旨

日時：2021年4月22日（木）20：00～21：30

場所：オンライン会議にて開催

出席者：吉岡洋（委員長）、吉水千鶴子（副委員長）、奥田太郎（幹事）、芦名定道、島菌進、土井健司、中島隆博、中村征樹、納富信留、野家啓一

欠席者：小林傳司（第一部幹事）、佐野みどり、藤原聖子

### 1 前回議事録の確認

前回議事録について確認を行った。

### 2 新任の特任連携会員の紹介

今回から特任連携会員として哲学委員会に加わった芦名委員の紹介があり、新たに幹事となった。

### 3 本年度のシンポジウムの日程とテーマの決定

- ・今年度の公開シンポジウムについて、日程、企画責任者、テーマ、提題者（候補）について協議され、下記の通り決定した。

開催方式：全面的にオンラインで開催

日 程：2021年12月4日（土）あるいは5日（日）

テーマ：コロナ禍における人間の尊厳

企画責任者：土井健司

- ・企画責任者が後ほどメールでコンセプト案を提示し、5月中旬に改めてオンラインで打ち合わせを行うこととした。

### 4 第一部会・総会の審議報告

- ・吉岡委員長より第一部会・総会での審議内容について報告があった。

### 5 各分科会の活動報告

- ・各分科会の活動状況が下記の通り報告された。
  - ✓ 芸術と文化環境分科会：重点課題としては芸術の公共性・社会性を考察する。前回実施できなかったシンポジウムを7月に実施する準備を進めている。22期でまとめられた翻訳センター構想についても検討している。
  - ✓ 古典精神と未来社会分科会：2月に開催。出版を通じて社会に貢献していく。岩波ジュニ

ア新書を出すことを継続する。よりわかりやすいものにすべく、高校生や高校教員とのコラボを企画中である。

- ✓ いのちと心を考える分科会: 今期はまず一年目にコロナ禍におけるトリアージの問題を扱うこととし、2月27日に一ノ瀬委員より「新型コロナウイルス問題と感染症倫理」(第三回)、また4月12日に安藤委員より「トリアージという語の意味するもの」(第四回)と題してそれぞれ報告をもらい審議した。5月12日には参考人(堂園俊彦氏ならびに竹下啓氏)招致による審議、また6月には中国、イタリア、ドイツのトリアージの状況について加藤委員より報告を受ける分科会を開く予定である。その先に8月頃にシンポジウムを実施することを検討している。また二年目以降は、安楽死、尊厳死の問題の審議を予定している。
- ✓ 哲学・倫理・宗教教育分科会: 24期の報告書を踏まえて、それを実効性のあるものにすることを目指している。現場の先生が参照できるような良質の素材を提供すること、現場との連携を通じた道德教育について考えることを検討中である。教科書検定官など、行政関係者を招いての研究会も実施予定である。
- ✓ 世界哲学構築のための分科会: 1月に開催。FISP等との連携を進めている。東大ですでに開催している、世界哲学に関するシリーズのシンポジウムを非公式にサポートしている。FISP日本開催時の受け皿になる予定でもある。

## 6 次回開催について

10月開催予定の哲学委員会については、改めて日程調整を行うことが確認された。